

性のあり方は十人十色 「個性」を認められるように

日本では約20人に1人が性的マイノリティ

性 別は男性、女性の2種類ではありません。性のあり方を構成する要素は、「からだの性」、「こころの性」、「好きになる性」の3つをはじめさまざまな要素があります。

リ方は、境界のない変化や違いを持つグラデーションに例えられます。

「からだの性」は、生まれながらの性、「こころの性」は、自分が自分の性別をどう考えているかというところで性自認とされます。

例えば、「からだの性」が女性で「こころの性」が男性ということもあり、その逆の場合もあります。「好きになる性」は必ずしも異性ではなく、どの性にも恋愛対象として関心がなくともあります。

「好きになる性」は、好きになるかならないか、なるとしたらどんな性の人を好きになるかということでの性的指向とされます。

男性は女性を好きになるもの、女性は男性を好きになるもの、ブルーは女の子のカラーといったことを「当たり前」「普通」だと思っ

ていませんか。一人ひとりの違いをその人の「個性」として認め、お互いを理解することが生きやすい社会につながります。



	からだの性 生物学的性	こころの性 性自認	好きになる性 性的指向	
L レズビアン Lesbian	♀ ×	♀ ×	♀ =	女性の同性愛者。こころの性が女性で、好きになる性も女性の人。
G ゲイ Gay	♂ ×	♂ ×	♂ =	男性の同性愛者。こころの性が男性で、好きになる性も男性の人。
B バイセクシュアル Bisexual	♀ × ♂ ×	♀ × ♂ ×	♂ ♀ =	両性愛者。好きになる性が異性の場合も、同性の場合もある人。
T トランスジェンダー Transgender	♀ × ♂ ×	♂ × ♀ ×	♀ or ♂ or ♀ or ♂ =	からだの性とこころの性が一致しない人。
Q クエスチョニング Questioning	♀ × ♂ ×	♀ or ♂ ×	♀ or ♂ =	好きになる性やこころの性がわからず、決められないあるいは悩んでいる状況にいる人。

※表はあくまで一例で、実際は、はっきりと区別できるものではありません

もっと知ってほしい!!

LGBTのこと

あなたはLGBTの人にどんなイメージをもっていますか。もしかしたらそのイメージは誤解かもしれません。LGBTに関する基本的なことをQ&Aで紹介しします

Q レズビアンの方は男性が嫌いなんですか？

A レズビアンの方は恋愛感情が女性に向けていて、男性に恋愛感情が生まれないのであり、男性が嫌だから、女性を好きになるというわけではありません。

Q トランスジェンダーの方はどのようなきっかけでこころの性に気づくのですか？

A こころの性に気づくのは人それぞれです。物心ついたときから「成長とともに、自分が思う、なりたい性になれる」と思っていたという人や、中学生になって、自分の心の性と異なる制服を着るのが嫌で性別の違和感を持ち始めたという人もいるなど、気づききっかけは人それぞれです。

Q LGBTの認知が進むと、LGBTの人が増えますか？

A 「こころの性」、「好きになる性」は自分の意志などで変えられないものです。LGBTの周知が進むことで、LGBTであることを表明する人は増えても、LGBTの人が増えるわけではありません。

Q ゲイの方は女っぽく、レズビアンの方は男っぽいですか？

A 人によって表現の仕方は様々です。そのため、見た目やしぐさ、言葉遣いだけでセクシュアリティは判断できません。その人のセクシュアリティに関わらず「女性らしい」と言われる人も「男性らしい」と言われる人もいます。

Q ゲイの方は女装していることが多いですか？

A テレビに出ているゲイの方はオネエ言葉を使って自虐的なネタで人を笑わせたりしている印象がありますが、多くは、ほかの人たちと同様に日々の生活を送っています。イベントでのパフォーマンスや余興的な意味合いで自ら女装を楽しんでいる人もいますが、多くのゲイの方は女装はしていません。

Q バイセクシュアルの方は同性と異性、どちらがより好きか違いはありますか？

A バイセクシュアルの方は好きになる性が同性と異性の両方に向けています。しかし、どちらの性別をより好きになるかということは人それぞれです。

Q カミングアウトされたけど、他の人に相談してもいい？

A カミングアウトした人が特定できるような形での相談は絶対にやめましょう。自分一人では抱えきれなくなったら、P13の相談窓口などに相談するのも一つの手です。

Q LGBTの人ってどこにいるの？

A 多くの方は、「LGBTの人に会ったことがなく、テレビでしか見たことがない」と思っているのではないのでしょうか。近年の調査で、LGBTの方は約3～8%ほどいるといわれています。あなたの周りに当たり前にいることを認識し、まずは知ることから始めましょう。